

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 一人一人が学びを深め、読む力を身に付ける授業の実践
- 生活体験を充実させ、体験したことを進んで表現し活用できる授業の実践

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員
- 平尾 美樹 校長:大櫛秀明 教頭:長尾武紀 教務:邊見瑞穂
生徒指導主任:丹澤耕平 研修主任:絆地亜由美
人権教育主任:高原利佳 道徳主任:原田綾乃

校長

大櫛 秀明

【各校の取組状況の把握について】

中間期や年度末など様々な機会を捉え、取組状況を報告し合い把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|---|---------|----------|-------------|
| ○読書や読み聞かせを好む児童が多く、与えられた課題に対し意欲的に取り組もうとする態度が見られる。 ●語彙力が少なく、問題の趣旨や長文の内容を読み取ったり、文章を書いたりすることに課題がある。 | ・読み書き計算等の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、読むことや書くことができる。 ・読解力を問われる文章を1人で読み取ることができる。 | ・習熟度別に課題を準備したりタブレットを活用したりして個に応じた指導を計画的に行い、基礎的・基本的な力を高める。 ・朝の活動時に漢字や計算ドリル学習に加え、読解力や速読力を高める学習や前学年の復習を反復的に取り入れる。 ・内容のまとめりや、いろいろな情報を結びつけて考えるように、授業展開や発問を工夫する。 | | | |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|---|---|---|---------|----------|-------------|
| ○進んで自分の考えを発表したり、書いたりできる児童が多い。 ●必要な情報を得るために、聞き取ったり読み取ったりする力が十分に育っていない。また、要点を絞って書いたり話したりすることにも課題がある。 | ・根拠や理由を挙げて自分の考えを書いたり話したりすることを通して思考することができる。 ・友達の発表を受けて、意見を繋げたり考えを深めたりすることができる。 ・考えたことを、事例や理由を挙げて分かりやすく書いたり話したりすることができる。 | ・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定し、自分の考えを伝える活動を継続的に行う。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・「○○さんの意見と同じで・違って・理由は」等の話型を使って発表することで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 | | | |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|---------|----------|-------------|
| ○宿題や与えられた課題に対してまじめに取り組むことができる。 ●自分で課題を見つけ、進んで学習に取り組むことが苦手であり、興味が薄い事柄に対して最後まで粘り強く取り組むことを避けようとする姿が見られる。家庭での学習時間にも大きな差がある。 | ・望ましい学習規律を身に付け、どの教科の学習にも主体的に取り組むことができる。 ・自らの課題を知り、解決できるよう粘り強く取り組むことができる。 ・興味・関心をもったことについて、自分で学習をすることができる。 | ・本時のめあてを伝え、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・分かりやすい授業やICTを活用した授業の展開を図り、児童自ら課題解決ができる場面を増やす。 ・主体的に学習することや、興味・関心に応じた支援を実践することの大切さを、家庭に啓発する。 | | | |

令和5年度 学力向上ロードマップ

